

熊本地震災害派遣薬剤師・九州ブロック現地活動報告 No.6

平成 28 年 4 月 26 日

- 【派遣日程】 4月20日（水）～4月21日（木）
- 【報告者】 宮崎県 猿川 隆文
- 【メンバー】 中村 隆介, 安藤 潤, 中津留 敏裕, 猿川 隆文
- 【派遣先】 ホテルエミナース、広安西小学校
- 【交通状況】 7:20 都城市(安藤、中津留、中村)で合流、
7:55 都城市出発、九州自動車道使用し八代 IC
11:50 熊本県薬剤師会到着、特に渋滞等なく到着
- 【ライフライン】 エミナースは概ね良好、広安西小学校は電気は使えたが他は NG
- 【活動内容】 被災者のお薬の手配、調剤、衛生管理等
- ◆20日
- 11:50 熊本県薬剤師会到着、熊本県薬の藤本先生から状況の説明
- 12:50 ホテルエミナース到着、先発隊より引き継ぎ、猿川、中村2名
広安西小学校へ
- 13:10 広安西小学校到着、先発隊より引き継ぎ
- 15:00 JMATDr 診察開始、
- 15:25 30代女性 カンジダ症の疑いでエンペシドクリーム処方、在庫が
無いので注文
- 15:40 60代女性顔のガーゼ交換
- 16:10 60代女性入れ歯を家に忘れ噛み合わせが悪く歯茎の炎症にて痛み
あり→カロナール処方
- ここで Dr の診察終了
- 16:45 50代男性 咳、鼻詰りあり→OTC のパブロン 6錠支給する
- ◆21日
- 8:50 エミナースから広安西小学校へ
- 9:10 グランメッセより頭痛ありで OTC 頭痛薬を渡す。
- 11:05 医療チーム診察、40代女性頭痛、胃部不快、持参薬(ロキソニン、
キョーリン AP2)、診察、血圧が高かったため→アムロジピン 2.5
1錠
- 11:20 風邪の Pt→フスコデ、PL 顆粒
- 11:30 皮疹→ゲンタシン軟膏、

11:58 足、脛の怪我→フロモックス、ゲンタシン軟膏
12:35 定期薬不足の患者、ミカルデイス 40 モバイルファーマシーより
調剤し、翌日渡すように申し送る。
後続班に引き継ぎ、宮崎に帰る。

-
- 【派遣日程】 4月21日（木）～4月22日（金）
- 【報告者】 宮崎県 甲斐 勝久
- 【メンバー】 佐々木 隆仁，山元 貴博，榎園 真，甲斐 勝久
- 【派遣先】 ルミナスホテル、広安西小学校
- 【交通状況】 宮崎県薬→宮崎西IC→八代IC→3号線→57号線→104号線→熊本県薬
→104号線→57号線→36号線→ホテルルミナス
- 【ライフライン】 電気、上下水道、携帯電波、通じていた。
駐車スペースは食事の時間になるとギリギリだったが、夜間近くは余裕があった。
飲食や荷物置き場は仮設薬局の中しかない。
寝る場所は仮設薬局隣の仮設診療所が夜間閉鎖するのでそこに寝袋を敷いて寝た。寝袋を敷けるスペースは3人用が1か所、2人用が2か所。仕切りが無い場所ならさらに3人用で2か所寝るスペースある。
- 【活動内容】 仮設薬局にて仮設診療所からでる処方箋の医薬品調剤。
日赤診療所が閉まった後の24時間一次救急の処置(挫創や挫傷の圧迫止血や消毒、害虫被害の外用塗布、打撲へ湿布塗布)
簡易診断とOTC投薬(虫さされ、風邪薬、うがい薬、口内炎、神経性胃腸炎、下痢、便秘、各種関節の慢性疼痛、頭痛)
復旧した医療機関を随時更新して掲示板に案内。患者さんの通院必要性の判断や代替医療機関の提案。
JMATへの医薬品払い出し窓口。
卸経由で入荷できないOTCを各県薬剤師会から入荷。(4/22に厚生労働省からのOTCが大量に届いた為に今後は追加不要)
医薬品リスト作り、Drに在庫がある代替薬変更提案。 医薬品写真で服用薬の確認補助。
ノロ予防にトイレ掃除に次亜塩素酸提案して希釈方法指導。
インフル予防にうがい薬、ハンドソープ、手指アルコールを入荷、手洗いうがい啓発。
炊き出し受け取り数から施設外車宿泊者数が来ている事を割り出しトイレ

数の増設。(医師、保健師と協力)

「薬剤師です」の看板を持って声かけてまわり、不安症や他疾患予備者を抽出。

避難施設が追加の際に、部屋毎に病床者、高齢者、家族連れの区別と部屋位置の提案。

エコノミー予防に体操提案し、車宿泊者に呼びかけ放送と体操の時間を作る。予防ポスター配布。

インフルと害虫予防に一斉換気の時間を作る。

※現地で行って頂きたい事や改善点

- ・ルミナースホテルの方は広島県薬チームが毎日引き継ぎ書を作ってプリントアウトしてあったので、過去にどのような問題があったかを含めて確認できた。できれば後続の方も引き継ぎ書を継続して作って欲しい。
- ・日赤姫路病院の医療チーム、熊本看護師会の看護師、和歌山保健所の保健師と薬剤師会でのミーティングの時間が診察前と診察後に1日2回(朝10時・夕方17時)あった。日赤Drが中心で行っていたが、Dr変更によってはミーティング無くなる可能性もある。その際はミーティングの開催提案を行うとよい。ミーティングによって問題点の抽出と、それぞれ別職種が重複して同じ業務を行っている事を改善できた。
- ・ルミナースホテルの仮設薬局と看護師会の相談所は24時間開業していた。夜間は仮設薬局に薬剤師を2~3人、相談所に薬剤師1人を配置し18時~22時、22時~2時、2時~6時の3交代制にした。全員が6時から始動したが開始時間が早過ぎた為にほとんど後半の組は休息できずに体力を消耗した。仮設薬局に1人、相談所に1人の配置にし、始動開始時間も調整することで、派遣薬剤師の体力確保も考慮したほうが良いと思われる。日赤の診療所開始時間は10時で、夜間の患者数は4/21が1名、4/22が2名だけだった。配置と交代時間の参考までに。

【派遣日程】 4月22日(金)~4月23日(土)

【報告者】 福岡県 小松 公秀

【メンバー】 加留部 信介, 叶 祥子, 甲斐 慎一郎, 小松 公秀

【派遣先】 益城町総合体育館

【活動内容】 処方数：22日168枚，23日81枚
処方外対応数：22日39件，23日12件
服薬指導、処方薬（代替薬）提案、調剤
次亜塩素酸ナトリウム調整
脱水・エコノミー症候群→初期症状有無確認・指導・OS-1配布
OTC相談・指導（マイティアA，熱さまシート，冷感パスマンナップL，
のどぬーる 等）
仕入伝票整理、入出庫管理票作成
薬棚・在庫整理（備蓄薬増加のため）

【派遣日程】 4月23日（土）～4月24日（日）
【報告者】 福岡県 杉岡 勇樹
【メンバー】 大神 修一，東 誠司，杉岡 勇樹
【派遣先】 益城町総合体育館
【交通状況】 広川IC→益城熊本空港IC 災害派遣車両で通行可
久留米より熊本県薬剤師会館まで約1時間30分
会館から益城町総合体育館までも大きな渋滞なく到着
【ライフライン】 電気○ガス×水道× スペースなし
【活動内容】 ①日赤チーム、国立医療機構チームで連携して薬物治療をサポート
服薬情報を医師に提供、代替薬を含む処方薬提案
（福岡、田川、久留米三井、八幡、熊本で24時間体制）
②体育館近隣の住宅街、幼稚園、公民館を廻って、感染症、エコノミーク
ラス症候群、薬剤不足などの掘り起こし、アドバイス、受診勧奨、OTC
提供
③薬剤整理、発注、納品作業の効率化
※今後は同成分一薬剤に集約していく必要があるかと思われる。
④騒音、照度、CO2 検査実施
⑤体育館入り口での健康お薬相談実施で潜在ニーズ、患者の掘り起こし、
感染症等予防喚起
⑥次亜塩素酸調製
調剤業務責任者とその他業務責任者を作って、総合責任者の指揮の元で組
織的に動いていくと良いと実感した。
メンバーが頻繁に変わるので、早朝か夜間にミーティングを実施すると良
いと思う。

調剤業務は調剤担当と診察投薬担当を分けて効率良く動いていくと良いと思う。

-
- 【派遣日程】 4月24日（日）～4月25日（月）
- 【報告者】 福岡県 内村 雅枝
- 【メンバー】 川本 太郎，丹原 直人，高橋 弘之，内村 雅枝
- 【派遣先】 益城町総合体育館
- 【交通状況】 小倉駅～博多駅（新幹線、約20分）、博多駅～熊本駅（新幹線つばめ、1時間強）、熊本駅～熊本県薬（タクシー、20分）熊本県薬～益城町総合体育館（通行止め区間、渋滞あるため、熊本県薬からの地図による説明通りに移動。約1時間）
- 【ライフライン】 電気○、ガス・水道なし
- 【活動内容】
- ①日本赤十字病院、国立病院医療機構の医療チームの医師・看護師・薬剤師・主事と共に連携を取りつつ調剤・鑑査・投薬を行った。薬剤師は、受付時より可能な限り患者と一緒に移動した。医師・看護師等へ、聴取した服用薬や現段階での在庫に基づく処方提案などを行った。調剤は他の薬剤師が行い、付き添った薬剤師が投薬をした。また、薬の採用や在庫数は状況に応じた対応が必要であった。
 - ②お薬相談コーナー（救護所とは体育館の反対側にあたる入り口付近に設置）では、便秘・栄養バランスについてなど避難が長期化してきている事に伴う相談が多かった。また、外傷・高血圧（血圧計設置）・定期薬が無くなるなどの相談が寄せられ、必要な場合は受診勧奨を行った。
 - ③本チームは携わらなかったが、日に3回の環境検査（二酸化炭素濃度・照度・粉塵測定）を行っている。
 - ④益城町総合体育館全体での決定事項。
 1. 下痢・嘔吐があれば清掃スタッフやボランティアだけではなく、必ず医療スタッフにも報告を行う。ノロウィルスの蔓延を防ぐために下痢等のあった場所を清掃が完了するまでは封鎖する。
 2. エコノミー症候群対策のため、広大なスペースにテントを配置し、車中泊をされている方のテントへの移動を促している。
-

- 【派遣日程】 4月24日（日）～4月25日（月）
- 【報告者】 福岡県 今村 葉子
- 【メンバー】 星野 崇, 関 恒彦, 今村 葉子
- 【派遣先】 益城総合体育館
- 【交通状況】 久留米インター～益城熊本空港インター～36号線を西方向に移動し、水前寺を經由するルートで熊本県薬剤師会館に到着(所要時間約1時間半)
熊本県薬剤師会館～益城町総合体育館へ(この時、益城町町民体育館と間違えて渋滞にはまったため、やや到着が遅れてしまった) 12:10 到着
- 【ライフライン】 水道なし、電気 OK、ガス未確認
- 【活動内容】 日本赤十字病院、国立病院医療機構(17:00 まで)の医療チームの処方を調剤。受付時より患者1人に1人ずつ薬剤師が付き、診察前にも出来るだけ患者の主訴や背景の聞き取りに努め、診察時には求めに応じて医師に対して処方提案。医師の希望する医薬品の在庫がない場合は代替薬を伝えた。カルテに基づき調剤、監査、薬袋及びお薬手帳記載を済ませ診察に立ち合った薬剤師が最後の投薬まで付き添った。(このように最初から最後まで主訴背景を理解した薬剤師が対応することで、患者が心を許してくれ、帰られる時は安心して満ちて頂けるよう努めた)
- その他、お薬相談ブースもあったが、これはほぼ他のチームにお任せする形となった。
- またエコノミークラス症候群の注意喚起の巡回は敢えて行わなかった。
- 我々が到着する数日前から十分に非難者向けにアナウンスが行われており、神経が過敏になられている避難者も多いためである。居住空間への立ち入りは極力避ける姿勢を取り、夜は静かに家族で過ごされる空間保持に努めた。
- 全体ミーティングでも同じように立ち入りを自粛するような通達もあった。(救護所から総合案内などへの移動も館内ではなく、出来るだけ外から回っての移動が勧奨された。)
- 24日から登山家・野口健さんのテント村プロジェクトが立ち上がり、車中泊のかたを対象とした誘導もこの日行われていた。同時に館内の居住空間整備に全体の動きがシフトしており、医療の目的も長期化が予想される。
- 24日のカルテ受付は約190～200名。25日の午後1時過ぎでも100人近くを受診があったと思われる。主に食後の時間が混み合う。
- また調剤と同時に医薬品発注もおこなった。
- なお、26日より22:00～翌9:00までは救護所が閉鎖となり、緊急時は救急搬送対応となりそうとのこと。

これは要望であるが、後任チームの到着が遅れると、その分引継ぎが遅
てしまい、この遅れた時間がちょうど患者が集中する食後とぶつかると、
業務全てが滞ってしまう。出来るだけ午後 12 時到着を遵守されるのが
望ましいと感じた。